12月の道内景況　情報連絡員レポート

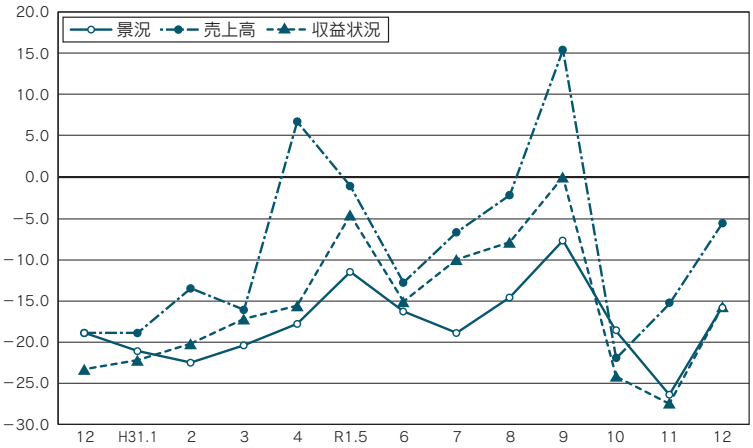
主要DIがそろって改善するも　依然マイナス域

概　況

主要DIの推移では、「景況」「売上高」「収益状況」のいずれも改善が見られたが、マイナス域での推移となった。

業種別のDIの前月比較では、製造業では「販売価格」以外で改善し、特に「売上高」「収益状況」で大幅に改善したが、マイナス域から脱しきれていない。非製造業では「販売価格」「資金繰り」を除き改善したが、「販売価格」以外はマイナス域での推移となった。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	11 月	12 月	前月比	11 月	12 月	前月比	11 月	12 月	前月比
業界の景況	△26.4	△15.7	10.6 ↗	△31.3	△15.2	16.1 ↗	△23.7	△16.1	7.7 ↗
売　上　高	△15.4	△5.6	9.8 ↗	△18.8	3.0	21.8 ↗	△13.6	△10.7	2.8 ↗
収 益 状 況	△27.5	△15.7	11.7 ↗	△34.4	△12.1	22.3 ↗	△23.7	△17.9	5.9 ↗
販 売 価 格	7.7	2.2	△5.4 ↘	3.1	3.0	△0.1 ↘	10.2	1.8	△8.4 ↘
取 引 条 件	△5.5	△1.1	4.4 ↗	△3.1	0.0	3.1 ↗	△6.8	△1.8	5.0 ↗
資 金 繰 り	△6.6	△4.5	2.1 ↗	△15.6	△3.0	12.6 ↗	△1.7	△5.4	△3.7 ↘
雇 用 人 員	△12.1	△11.2	0.9 ↗	△9.4	△9.1	0.3 ↗	△13.6	△12.5	1.1 ↗

（凡例）　30 以上　10 ～ 29　9 ～△ 10　△ 11 ～△ 29　△ 30 以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D･I）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・キャッシュレス還元に対応していない店舗では例年の年末商戦に比べ苦しかった。（水産食料品／全道）
・そばはロシア産が不作、中国産はロシア産が不作のため需要が増し値上げとなり、道産も不作で値上げとなった。（めん類／全道）
・11 月単月の出荷量は、味噌・醤油とも前年比減。味噌が特に悪い。道内の 1 月～ 11 月の累計出荷量も味噌・醤油ともに前年比減。出荷量減に伴い、味噌の原料である国産米、アメリカ米、外国産大豆等の価格が上昇傾向にあり、取り巻く環境は厳しい。（味噌・醤油／全道）
・12 月商戦は昨年並かそれ以下の売上のところが大勢のようだ。やはり消費増税の影響はあると思われる。飲料は軽減税率の対象品だが、必要な物を必要な量だけ購買する消費者の節約志向は変わらず、売上は横ばい状態と思われる。（飲料／全道）
・原木在庫は 12 月に入りようやく入荷量が増えてきている。製材受注量は横ばい。（一般製材／札幌）
・製材市況は、カラマツは保合。エゾ・トドマツは保合。原木市況は、カラマツは保合。エゾ・トドマツは保合。カラマツ原木は、入荷はあるが、地域によりバラツキがある模様。製材の受注は、梱包、パレットの荷動きは悪い状況が続いている模様。エゾ・トドマツ原木は、回復しているが、道央圏では不足している事業体もある模様。いまだに小径材は不足している模様。（一般製材／全道）
・12 月の生コン出荷量は 225 千 m^3 で、前月比は 28.5％減、前年同月比は 0.3％減となった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・販売価格上昇するも人件費アップのため収益増につながらない。函館地域の新幹線札幌延伸工事は 4 月頃本格化するとみられる。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・組合活動に対する認識不足、組合の必要性が少なくなってきている。業界の収益の伸び悩み、人材確保の難しさ、先行きの不透明感等、業界にとって良い環境を示せないことが問題に上げられ、さらには、後継者問題などによる事業の廃業が多くなり、業界の事業所数の減少傾向が続いており、組合活動に対する理解を得にくい環境が続いている。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・直近では、産業機械は普通、自動車は普通、建機は普通、水道管は普通、一般は減少傾向である。稼働率が 100％未満の企業もあるが、翌期は持ち直しそうだ。来期見通しとしては、水道管は普通、自動車はやや良い、産業機械は普通、建機はやや悪い、一般鋳物はやや悪い。（銑鉄鋳物／全道）
・海運市況は徐々に回復しつつあり、今年から始まる新造船各種の環境規制への対応が明らかになってくる春頃から新造船マーケットが回復するものと各造船所は期待している。（金属製品／函館）
・人手不足感は依然として続いており、随時募集している企業が見受けられる。（金属機械工作／札幌）
・人材不足は業界内どこも一緒のようだ。採用をしてもすぐに辞めてしまうことが多く定着率も悪くなってきている。（金属機械工作／全道）
・消費増税後の反動が多少影響している。（家具／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・消費増税の一時的な反動が収まり全体的に売上は前年並みの水準となった。靴履物ではネットやライフスタイルストアに売上が流れ、息切れ倒産が小売専門店から出ている。物流費用の高騰が続き、物流体制の再構築が必要となっている。売上的には暖冬の中、実需性・機能性の高い商品が売れて前年を上回っている。（各種商品／札幌）
・大型連休となったため通常よりも在庫を確保したものの、商況は前年割れしたところが多い。以前ほど年末商戦のボリュームが、食品小売としては大きくなくなっており、総菜等の売上は伸びているものの、菓子はやや苦戦した。（菓子／全道）
・キャッシュレス・消費者還元事業の効果で、登録加盟店の売上が伸び、コンビニ等の少額決済が増えているが、大手家電量販店や大型ショッピングモール等、還元事業対象外の売上の大きな店舗の売上減少と、燃料系の売上が昨年より燃料単価が上がっていながら暖冬の影響からか数量が伸び悩み、全体では微増に留まっている。キャッシングにおいても減少が続いており、収益は減少傾向にある。（各種商品／旭川）
・12 月は年金支給日に合わせて特売日を決めていたが、年々地元客の出足が遅いので、特売日を例年より一週間遅くしたところ、客足が伸びた。特売日が宣伝になったのか、以降も正月用品を求めての来場者が多い。（各種商品／小樽）
・クレジット業界における消費者還元事業（5％還元）は、当社にとっては割と順調に数字は伸びているが、一部加盟店にとっては売上増に直接結びつかず、単にクレジット比率の増となり経費率が上昇している店舗もあるようだ。（各種商品／帯広）
・函館市水産物地方卸売市場の 12 月の生鮮スルメイカ取扱量が前年同月比 14 倍の 168 トンとなり低水準ながら激増し、漁期終了が迫る中、累計取扱量が前年を超える可能性も見え始めている。また、函館税関が今月中旬に発表した 11 月のイカの輸入額が前年同月比 15.1 倍の 16 億 1400 万円を記録し、比較可能な 1979 年以降で過去最高であった。しかしながら、水産加工会社の中には原料を輸入イカに頼る企業もあるが、函館特産食品工業協同組合によると「輸入イカも価格が高く、数年前から内容量を減らす対策を取っている企業もあるが苦しい」という声も出ている。（各種商品／函館）
・各組合員、12 月の歳末セール等に期待していたが、消費増税の影響を受けて売上的には厳しい状況だったとのこと。特に衣料品関係の組合員からは前月同様、増税の影響さらに暖冬等により、前年より厳しかったとの声が多かった。12 月の取扱高については、前月同様、キャッシュレスポイント還元効果により全体的には前年を上回る結果となった。部門別ではカード部門、個品ローン部門でマイナスのキャッシング部門をカバーした状況である。（各種商品／釧路）
・ニューヨーク市場の WTI 価格は 12 月 2 日 55.96 ドルで先月 11 月のスタートから見て 0.24 ドルの反落でスタートした。これは 11 月末に米国・中国貿易協議の決裂から反落した模様である。その後も米中貿易摩擦の第一段階の合意、さらに主要産油国の減産体制は 2020 年も維持されるとの期待から 27 日では 61.72 ドルまで反発した。（燃料小売業／旭川）
・12 月は、雪が少なく天候の良かった事や、3 週連続の売り出しの成果も出て、例年より入店客も売上も増加となった。観光客も増加したように感じられた。（鮮魚／釧路）
・組合全体の前年比は 92.0％、大型スーパー 2 店含む食品関連は前年比 96％、それ以外のホームセンターを含む一般店の前年比は 85.3％。家電、家具等の大型商品取り扱い店が前年比悪化。
・例年以上にクレジットカード販売比率が高かった。（各種商品／芦別）
・消費増税後、大型家電は低迷している。売れ筋のカラー液晶、有機 EL テレビの在庫不足で売り機会を逃すことが多かった。（電気機械器具／全道）
・12 月は一部地域において厳しい寒さ・降雪もあったが、全般的に暖かい日が続いたため灯油商戦は不調に終わった。また、石油製品全般についても、ガソリン需要の不振等から経営的には厳しい状況が続いている。（燃料／全道）
・新年の小売フェア等は良好だったようだ。雪も少なく、今後に期待する声も多い。（中古自動車／札幌）
・MS 社の Windows7 へのサポートが来年 1 月に終了することに伴い、Win10 への移行がピークを迎えている。多くの道内企業は Windows7 をベースに自社サーバーでデータ管理や業務処理を実施しているが、これを機に Win10 への移行とインターネット経由でクラウドサービスを利活用する企業が増加している。企業としては、このタイミングで業務の効率化や運用コストを削減したい要望が強く、そのための切り替え作業が道内の中小システム開発企業に特需として押し寄せている。しかし、人手不足やすでに受託しているシステム開発を優先するため、期限に間に合わない状態となっている。そのため、サポート終了後も切り替え対応が引き続くことが予測され、セキュリティ上の懸念を抱えることになりそうだ。（ソフトウェア／全道）
・12 月の宿泊実績は前年対比減少。前月に引き続き、一部では韓国客が戻っているところがあるものの、全体では道内、道外、海外ともに前年実績を下回る結果となっている。
年末年始、週末を除き厳しい集客状況が 1 月も予測されるため、限定しながらも価格の割引きが一部見られる。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・12 月の業況は、公共工事に関しての発注は物件数も少なくなり、年が明けてからの年度末の発注物件に期待する状況にある。北海道においては地域性もあり、気温の低下や工期が迫ってきている中での人材の配置ややりくりなど、作業環境としてはあまりよくない状況の中、完成を目指していく工事が多いように感じる。電力系の工事に関しては、昨年に比べて確実に減少してきている状況ではあるが、現段階ではまだある程度先が見通せるだけの仕事量は確保出来ると推測できる。
熟練した技術者が減少する中、高齢者や若年者に頼らざるを得ない状況も今後続くと予想される中、地道な人材の育成を継続していくことが大きな企業課題となってきている。（電気工事／全道）
・年末に向けて完成工事額がやや増加傾向。（左官工事／全道）
・11 月初めに発注された工事は例年と比較して降雪量が少ないことから順調に進んでいる。
市では 12 月中に令和 2 年度の財政部局の予算要求ヒアリングが行われ、年明けに市長ヒアリングが予定されているが、財政難を反映し前年度予算以下にカットする予定とのことであり、水道関連予算がどうなるか気になる所である。（管工事／名寄）
・少雪の影響は多大で、ダンプ等除排雪業者は売上ダウン。燃料販売も同様。（一般貨物自動車運送／小樽）
・青果物については先月に引き続き市況が悪く、荷動きが鈍化している。一般カーゴについても同様で、年末に一時期的に車両不足となったが大きな影響はなかった。
域内輸送についても同様で、年末に向けて日配品の動きが活発化したものの、例年ほどの荷動きではなかった。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比 1.6％減少。乗務員数は前年同月比 4.6％減少。11 月分チケット取扱高は前年同月比 4.5％増加。（一般乗用旅客／旭川）